

単元名 6 いにしえの心を受け継ぐ 一和歌の世界 古今和歌集 仮名序 配当時間 1時間

単元の目標 (1) 「和歌の世界」を読んだり、「仮名序」を朗読して比喩的な効果を確認したりしながら、和歌に対する古人の思いを捉えることができる。
(3) 進んで古典の世界に親しみ、今までの学習を生かして朗読しようとする。

標準的な展開例

12210213_001

【準備等】国語指導CD、再生機

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 声に出して読み、古文の言葉のリズムや響きを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「和歌の世界」を読み、「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」について興味をもつ。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★繰り返し朗読し、古文のリズムや響きを味わおう。 ○原文、現代語訳を読み、作者の思いを想像する。 ○原文の表現の特徴を理解する。 ○表現の特徴を生かしながら、朗読の練習をし、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三代和歌集について時代背景や作者、作風などを整理させる。 ・「古典・近代文学の名作」(p.272)や「日本文学の流れ」(p.278)から文学史を知り、歴史的背景に興味をもたせるとよい。 ・教師が範読する、もしくは国語指導CDを利用するのもよい。 ・生徒に斉読させた後、黙読により読み方の確認や内容の理解をさせたい。 ・「和歌」を植物の種と葉にたとえていることを知り、作者が和歌をどう捉えていたかを想像させる。 【評】作者の思いを捉える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・文末表現と対句表現を理解させる。 ・係り結びについても確認しておく。なお、係り結びについては第2学年「扇的」「仁和寺にある法師」を振り返るのもよい。 ・群読、斉読、グループ読み、個人読みなど、読み方の工夫をしたい。 ・可能なら、暗唱まですすめたい。 【評】古文のリズムや響きを楽しみながら朗読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

古典を学習するということは、古典の文章や内容を読んだり知ったりするだけでなく、そこから今の生活を刺激し、豊かにすることである。心情や情景を想像して楽しむ活動を多く取り入れることで、より身近に古典を感じさせるとともに、その時代に生きた人々と心を通わせる単元としたい。朗読や暗唱の機会を多く設けることで読み慣れるだけでなく、独特のリズム感もとらせたい。また、情景やその思いを捉えることで、古人のメッセージから自己を見つめ直すこともできる。